

2017年3月24日

報道関係者各位

ジャパンホームシールド株式会社
アートクレーン株式会社

『CDP工法』を用いた戸建住宅向け液状化抑制対策が 「ジャパン・レジリエンス・アワード2017」優秀賞を受賞

戸建住宅の地盤調査・改良工事を手掛けるジャパンホームシールド株式会社（所在地：東京都墨田区、代表取締役：斎藤 武司）、およびアートクレーン株式会社（所在地：静岡県伊東市、代表取締役：山口 喜廣）は、「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2017」（主催：一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会）において、協働で行っている「地盤の密度増大工法『CDP工法』を用いた液状化抑制対策」の取り組みが優秀賞を受賞しました。



<表彰式の様子：アートクレーン山口社長>



「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）」は、次世代に向けたレジリエンス社会構築のため、強靭な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる企業・団体からエントリーを募り、評価・表彰する制度です。2014年11月に創設され、今年で3回目となります。

今回受賞したプロジェクトは、「碎石を用いた地盤の密度増大工法（Compaction Drain Pile 工法=CDP工法）」を戸建住宅の液状化抑制対策として運用するものです。近年では東日本大震災でも顕著な被害が発生するなど、湾岸や埋め立て地の戸建住宅は震災の度に液状化被害を受けています。しかし一方で、戸建住宅向けの液状化対策工事は、大規模な工事や費用負担が難しいことから一般に普及が進まない状況にありました。そこで、ジャパンホームシールドとアートクレーンは、戸建住宅でも採用しやすい液状化対策工法の確立を目指し、共同で開発を進めてきました。

CDP工法は、鋼管を用いて碎石を柱状に打設することで、緩く堆積した砂の密度を増大させます。これにより、液状化が起きやすい緩い砂質土層を改善することができ、液状化の発生を抑制します。従来の液状化対策工法に比べ、機械が小型で施工期間も短いことから、価格が抑えられ一般の戸建住宅でも取り入れやすいのが特長です。CDP工法の普及により、戸建て住宅の地震時の液状化被害を抑えることが期待できます。

ジャパンホームシールドとアートクレーンは今後も、優れた地盤調査・対策技術を通じて安全・安心な住まいづくりに貢献していきます。

本件に関するお問い合わせ先

ジャパンホームシールド株式会社（<http://www.j-shield.co.jp/>）

本社：東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア17F

報道関係の方から：広報マーケティング部 児新（コニイ） TEL. 03-5624-1545

※このリリースは、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にお届けし、
ジャパンホームシールド（URL: <http://www.j-shield.co.jp/>）のホームページで発表しています。
<ジャパンホームシールドはLIXILグループの一員です>